同宗連結成20周年記念大会□1
阿弥陀さまと私□2
新・祖蹟点描□3
青色青光□4
寺族青年連盟が研修会□6
２組で連研修了式□8
僧侶・寺族研修会□9
響流十方□10
つれもて聴こら□12

さぎのもり
2019年(平成31年)
4月1日
第120号
発行：「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会　〒640-8053　和歌山市鷺森１番地　本願寺鷺森別院内　℡(073)422-4677　URL　http://saginomori.or.jp/

和歌山県同宗連

結成20周年祝い記念大会

差別ない社会へ努力誓う

和歌山県内16の宗教教団でつくる「同和問題にとりくむ和歌山県宗教教団連絡協議会」（和歌山県同宗連）の結成20周年記念大会が2月6日、鷺森別院本堂で開かれ、各宗教団体の宗教者や信徒ら160人が参加した。

和歌山県同宗連は1997年（平成9）6月6日、教えの根源に立ち返り、基本的人権に関わる問題を考え、部落差別を初めとするあらゆる差別を克服することを目的として結成された。

結成大会の「宣言文」には、「社会の矛盾にあえぐ人々の叫びに深く心をいたし、根源的罪深さへの悲しみがわれらのものとなったとき、はじめて救いがもたらされ、真の宗教ははじまった。しかし、それを継ぐわれわれは、真の願いを受け継いできたのであろうか。（中略）われわれは、その深き反省のうえにたち、人間のもっとも忌まわしき罪、一切の差別に対し、勇気をもって立ち向かうことを決意し、真の宗教者たらんことをここに宣言する」と、その活動理念が力強くうたわれている。

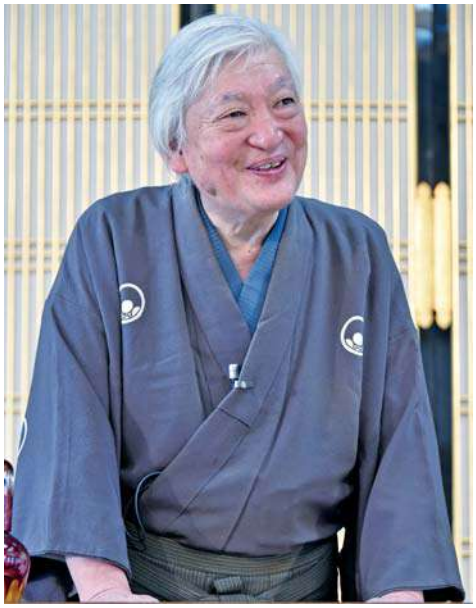
開会式では、この宣言文を参加者全員で斉唱し、結成当初の願いを再確認した。

あいさつに立った赤松明秀議長（西山浄土宗）は、「平成28年12月には部落差別解消推進法が施行されましたが、私たちもさらに運動を強化し、差別のない社会実現のために努めてまいる所存です。皆さまのご協力をお願いいたします」と、呼び掛けた。

続いて、講談師で大阪芸術大学客員教授の旭堂南陵さんが記念講演。「人の心に潜む差別」と題し、大相撲を例に取るなど穢れと差別の問題について話し、後半は講談で会場を沸かせた。

和歌山朝鮮初中級学校（和歌山市中島）の生徒らによる記念公演では、伽耶琴など朝鮮半島の伝統楽器の演奏を聴いた。

記念公演で伽耶琴を演奏する和歌山朝鮮初中級学校の皆さん


旭堂南陵さんが差別をテーマに講演

赤松明秀議長

阿弥陀さまと私

ハウツー仏事

㉒臨終勤行

阿弥陀さまに人生最後のお礼のお勤め

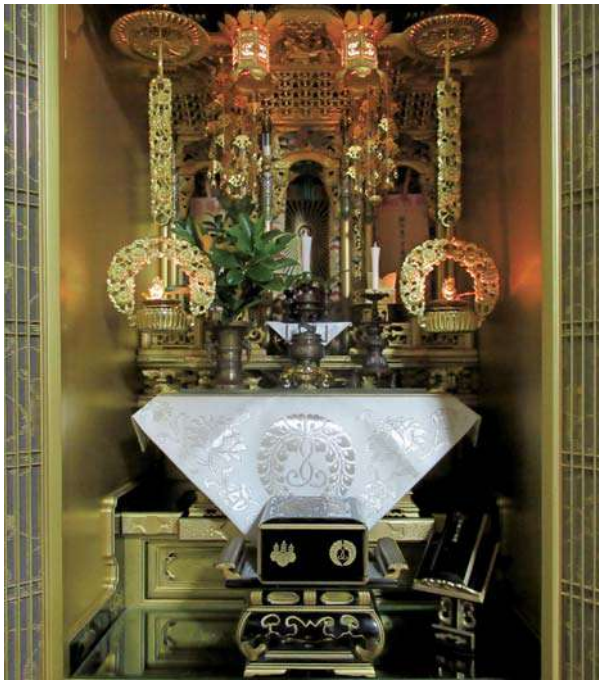
今号からは、人生最後の大切な儀式である葬儀に関わる一連の法要を取り上げます。

ご家族などが亡くなられて最初のお勤めが「臨終勤行」です。臨終勤行といえば、筆者には忘れられないエピソードがあります。

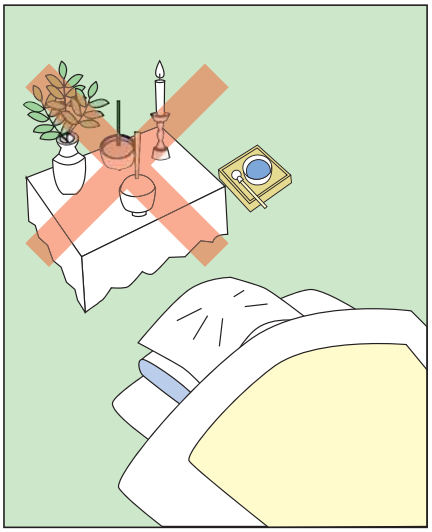
それは2000年（平成12）5月31日のこと。当時勤務していた本願寺名古屋別院に一本の電話が入りました。電話の声の女性は「お勤めをしてください。主人がもうじき死にそうなんです」と、言われたのです。

電話を受けた私は驚きました。臨終勤行は、文字通り人生の〝終わりに臨んで〟のお勤めですから、亡くなる前にさせていただくのが本来のありようですが、実際には、ほぼすべてが亡くなられてからのご依頼だからです。

とにかく「すぐ行かせます」と、職員が愛知国際病院のホスピス病棟に駆け付けて臨終勤行をし終えたのは、電話の主、Tさんの旦那さんが亡くなるわずか45分前だったとあとでお聞きしました。



仏華は樒のみ、打敷は白（お飾りの一例）



枕元に仏具や一膳飯などは置きません

別院ご門徒のTさんは、旦那さんの脈がだんだん弱くなってくるのを感じ、直感的に電話されたそうです。

浄土真宗における臨終勤行とは、日ごろからお育てお導きを頂いた阿弥陀さまにお礼申し上げる意味で、ご本尊に向かい生前最後のお勤めをすることです。

ですから、本来はこれから死を迎えられる方ご自身がお勤めされるのが本当ですが、実際にはなかなか難しいことですので、息を引き取られたあと、遅ればせながら、亡き方に代わってお勤めさせていただくのが一般的です。その際は、同席されているご家族や親せき、弔問の方なども一緒にお参りください。

病院で亡くなられた場合、最近はご遺体が直接葬儀会館に運ばれることも多いようです。しかし、できるだけいったん自宅に戻り、ご遺体を仏間に安置し、お仏壇の前で臨終勤行をお勤めするようにしたいものです。

臨終勤行は俗に枕経とも呼ばれますが、ご遺体に対して読経するのではありません。普段のお勤めと同様、必ずお仏壇のご本尊に向かって行います。

お仏壇のお荘厳は、仏華は樒やビシャコなどの青木のみ、ろうそくは白を用い、打敷は白か無地の物を掛けます。お仏壇がない場合でも、適宜ご本尊を安置し、その手前に三具足（ろうそく立て・香炉・花瓶）を置いてお勤めいたします。

お勤めの次第は、『葬儀規範勤式集』によれば、仏説阿弥陀経・念仏・和讃二種・回向で、読経後、弔問の法話または御文章（末代無智章、信心獲得章）の拝読とされています。

なお、誤って亡き方の枕元に三具足を置いたり、茶碗にご飯を盛って箸を刺した「一膳飯」などを供えている場合がありますが、このようなことはいたしません。これ以外にも誤った習俗や迷信がいろいろとありますので、その都度所属のお寺にご相談ください。

（松本教智・「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員長）

驚森テレホン法話
073-422-0243（おにしさん）

こころの電話（海南組西光寺）
TEL(073) 487-2430
ヤングこころの電話（同　上）
TEL(073) 487-0404
こころの電話（御坊組専福寺）
TEL(0738) 44-0874

新 祖蹟点描

22 勝林院

法然聖人、大原で諸僧と談論

吉水の草庵（禅房）を開いておよそ9年後の1186年（文治2）秋のこと、法然聖人（法然房源空聖人、1133～1212）は比叡山の僧・顕真（1130～1192）から大原の勝林院に招かれ、顕真らの問いに答える形で専修念仏の教えを説かれた。大原問答（大原談義）である。

顕真は、その3年前の1183年（寿永2）11月19日、師であり天台座主だった明雲が「法住寺合戦」に巻き込まれ急逝するという衝撃的な出来事に遭遇していた。源義仲が対立する後白河院の御所となっていた法住寺を襲撃した際、居合わせた明雲が流れ矢に当たったのである。しかも明雲の首は西洞院川に捨てられた（『愚管抄』巻五）。

この事件によって、出離生死の道（苦悩に満ちたこの世を離れ、さとりの世界へと至る道）を求める思いを強くした顕真は、思いを同じくする友人の僧と語り合うなかで、法然聖人の存在を知らされる。

やがて比叡山麓の坂本で法然聖人と対面する機会を得た顕真は、「このたび、いかゞして生死を離れ侍るべきや」と問うた。これに対し法然聖人は、「成仏はかたしといへども、往生は得やすし。道綽・善導の心によれば、仏の願力を強縁として、乱想の凡夫（煩悩にとらわれた者）往生す」と返答されたという（『法然上人行状絵図』巻十四）。

このとき顕真は、法然聖人は知恵は深いが偏ったところがあるとの印象を持った。それを伝え聞いた法然聖人は、自分の知らないことにはだれもが疑心を起こすものだと言われたという。顕真はこれを知り、浄土の教えを真剣に学ぼうと決意。大原に百日籠もり独学に専念、改めて教えを請おうと法然聖人を招いたのである。

問答の場には、比叡山の碩学、東大寺の再建に従事する重源と弟子30人、大原の聖なども参会し、談論往復すること一昼夜にわたったという。

一々の問答については、残念ながら確たる史料がない。『行状絵図』によっておおまかな内容を追うと、法然聖人は、仏教諸宗のさとりへと向かう方法や修行のありようをつぶさに述べた上で、次のように語られた。

これらの教えには深い道理がある。教えとそれを受ける側が相応すれば、さとりを得るのにそれほど歳月は要さない。だが私のような頑愚の類いはその器ではない。私自身、自分の力でさとりを得ようと聖道門の教えを学んだが、かなわなかった。これは世が末法で人も愚かで、教えと私たちが相背くからである。

しかし善導大師の説かれる浄土三部経の肝要によれば、阿弥陀仏の願力という「強縁」のゆえに、だれもが智慧のあるなし、持戒破戒に関係なくさとりの国（浄土）に生まれることができる。これは浄土門のみ、念仏行ただ一つである――。

法然聖人はさらに、法蔵菩薩が願を建てられたいわれと、現に阿弥陀仏となられ私たちをお救いくださる功徳を「理を究め、詞を尽くし」て語られたという。

一同は信伏し、顕真は喜びのあまり勝林院の本尊である丈六（高さ一丈六尺＝約4㍍85）の阿弥陀仏の周りを行道しながら声高らかにお念仏を称え、人々もこれについて行道すること三日三晩に及び、念仏する声は林野に響き渡ったという。

勝林院は1013年（長和2）に寂源（生年不詳～1024）が創建。慈覚大師円仁が唐から持ち帰った法要儀式や声明（法要で経文などに節回しを付けて唱読する仏教声楽）を伝えるお寺。現本堂は1778年（安永7）の再建。

【参考文献】平雅行『法然　貧しく劣った人びとと共に生きた僧』（山川出版社）（本紙編集部）

丈六の阿弥陀さま㊤を安置する本堂㊨

勝林院

場所　京都市左京区大原勝林院町187
電話075(744)2537
交通　京都駅から地下鉄烏丸線で19分、「国際会館」駅下車、駅前から京都バスで22分、「大原」駅下車、徒歩約10分。

和歌山教区
仏婦連盟

お寺の素朴な疑問語り合う

鷺森別院で第3回「若い女性の集い」

教区仏教婦人会連盟は2月9日、鷺森別院で3回目となる「若い女性の集い」を開催した。

仏教婦人会活動推進者の育成を目的として、今までお寺に関わることがなかった女性に、日常生活の営みのなかで少しでも仏教の味わいを深めていただきたいと、年に1度開催されている。今年は10人が参加。

午前11時からの開会式のあと、「お参りのイロハ」と題して、焼香の作法やお念珠・門徒式章・経本の取り扱い方などを学んだ。

ランチ&ティータイムを挟み、「お寺に関する素朴な疑問？ETC…」と題して仲尾信博教務所長が講義と問題提起を行った。その後、2班に分かれてのグループ討議では、仲尾教務所長が提起した「子どもの時にうれしかったこと、悲しかったこと」「最近うれしかったこと、悲しかったこと」の2点について、参加者が思い思いに語った。

最後に仲尾所長は「お寺は同じ宗教のもと、誰もが気兼ねなく語り合える場所です。しかし私たちは語り尽くせず、また、分かり合えず命を終えることもあります。でもその先に阿弥陀さまは、お浄土という仏さまの世界を用意してくださっています。お浄土は、だれもがお互いを認め許し合える世界です。親鸞聖人はそんな浄土真宗の教えを顕らかにしてくださったのです」と、まとめ。

参加者にとって仏教が身近に感じられるような研修会となった。

講義で門徒としての基礎知識学ぶ

浄土真宗の教え身近に

２班に分かれ討議と発表

新たな門徒推進員誕生に向け

組連研修了者を対象に研修会開く

和歌山教区では2月2日、鷺森別院で連研履修者研修会を開催した。

この研修会は、門徒推進員養成連続研修会（連研）修了者としての自覚を促し、中央教修の受講を奨励するために開催されており、今年は和歌山北組、加茂組、海南組から修了者6人が参加した。

連研受講の感想語り合う

海南組で第１号の門徒推進員・立花美一さん

研修は、連研中央講師の加藤真悟さん（大阪）が「連研を通して学んだこと、感じたことをきかせてください」というテーマで進行。

話し合い法座では、「連研を受けて、人との出会いがあった」「話し合いで多くの方の意見を聞き、いろんな考え方や意見があるんだと受け容れられるようになった」など、参加者一人ひとりが連研を受講しての感想を発表。

まとめの講義で加藤師は「仏さまの教えを聞くことで、人の痛みを私の痛み、人の喜びを私の喜びとさせていただくことはできないかもしれないが、それができる道を、至らないもの同士が共に語りあい、私の生き方を問うていくことが大切です」と語った。

最後に、昨年12月に海南組第1号の門徒推進員になった立花美一さん（同組浄国寺）が、ご本山での第264回門徒推進員中央教修（3泊4日）の体験談を発表し、連研修了者に対して中央教修受講を勧めた。

青色青光

青色青光

岐阜旅行で団結力アップ

教区仏壮結成40周年大会を機縁に

教区仏教壮年会連盟は1月27日から28日の一泊二日の行程で「結成40周年記念大会」開催記念研修旅行を行った。2018年6月2日に開催した「結成40周年記念大会」に、運営で携わった会員相互の一層の親睦を深めるとともに、さらなる仏壮活動の推進に向けてこのバス旅行が企画され、会員20人が参加した。

本願寺岐阜別院（岐阜市西野町3丁目1）の参拝をはじめ、高山市内の朝市や飛騨高山酒蔵巡り、郡上八幡博覧館では、国が指定する重要無形民俗文化財で日本三大民踊（阿波おどり、会津磐梯山おどり、郡上おどり）のひとつ「郡上おどり」の鑑賞など岐阜の風情を満喫。会員らは交流を深め、今後の事業推進に向けて団結力を高める研修旅行となった。

本願寺岐阜別院本堂で集合写真

別院境内の植木スッキリ

教区内の門徒総代ら40人が剪定奉仕

教区門徒総代会では1月20日、教区内寺院の門徒総代ら40人が、年に1度の鷺森別院境内の剪定奉仕を行った（写真）。

午前8時45分から鷺森ホールで「讃仏偈」をお勤めした後、雨のせいで濡れて滑りやすくなった足場に注意しながら、別院の庭園をはじめ、境内各所にある桜や松などの樹木の手入れにいそしんだ。

奉仕活動後は、鷺森別院婦人会の会員らが用意した味噌汁で、雨の中の作業で冷えた身体を温めた。

他寺院の歴史や活動に学ぶ

和歌山西組で組活動推進事業報告会

教区門徒総代会は2月15日、和歌山西組が担当して、同組正善寺（和歌市松江東）で「組活動推進事業報告会」を開催。他組の取り組みに学ぼうと教区内の門徒総代ら57人が集まった。

報告会では、和歌山西組を代表して2人が発表。本願寺（和歌山市土入）総代の西村和郎さんが「本願寺の歴史」と題して、詳細な歴史資料を提示しながら同寺の由緒を説明。

続いて安楽寺（和歌山市磯ノ浦）総代の多部博司さんが「安楽寺を取り巻く現状と寺院活動」と題して、安楽寺沿革、現在の活動状況を分析し、課題と取り組みを発表した。

参加者で満堂となった本堂（正善寺）

総括で、仲尾信博教務所長は「門徒総代として自分の所属する寺院の沿革を知り、寺院内の活動にとどまらず、地域性に応じ、社会性を考慮した活動を展開することも大切」とまとめた。

この報告会は教区内14組が毎年1回持ち回りで実施している。

得度習礼講習会を実施

和歌山教区では2月16・17日の両日、「得度習礼講習会」を鷺森別院で開いた。

得度習礼の前に、本山や各教区での講習会の受講が義務づけられて以降、2014年度から教区では毎年1回開催している。

今年は教区内外から6人が受講。教区内特別法務員の指導による衣体の被着法、本堂内陣の荘厳説明、お勤めや御文章拝読の練習などが行われ、受講者は得度に向け気を引き締め、僧侶としての基本を学んだ。

和歌山教区寺族青年連盟が主催して研修会

一人ひとりの悩みに寄り添う

わか僧ぞうと学ぶ！ 聞き方レッスン

和歌山教区寺族青年連盟（小川眞史委員長）が主催する研修会「わか僧と学ぶ！聞き方レッスン」が3月2日、鷺森別院書院で開かれ、同連盟会員ら20人が参加した。「わか僧」とは、和歌山（わかやま）の若手（わかて）僧侶を「若造」に掛けたネーミング。前半は、龍谷大学文学部臨床心理学科教授の吾勝常行師（加茂組員教寺住職）と同連盟会員で臨床心理士としてスクールカウンセラーを務める辻本真一朗師（和歌山組西念寺住職）が「聞く」ことを巡り対談。後半は、聞くことの難しさを体験するためのロールプレイ。参加者は、3人ひと組で順番にクライエント（話し手）、観察者、カウンセラー（聞き手）役になりながら、お互いに感想を聞き合うことで、聞き手と話し手の関係について新たな気付きを得ていた。

対談　吾勝常行師×辻本真一朗師

辻本　今日は吾勝先生をお迎えして、「聞き方」についてと、これに仏教を絡めた話などもさせていただけたらと思います。

吾勝　普段は龍谷大学の臨床心理学科で4回生と大学院の生徒を受け持ち、ビハーラ関連とビハーラ・カウンセリングというテーマの授業を担当しています。

カウンセリングに関心を持ったのは、大学3回生のときです。個人的な悩み事がありまして、なかなか自分のなかでは解決付かず整理もできず、どうしたものかと思っていたとき、龍谷大学に、仏教、特に浄土真宗とカウンセリングの関わりを考えておられた先生方がおられたので、その研究グループに入り、かれこれ40年ぐらい仏教とカウンセリングが関わる領域で研究と実践をやってきました。

吾勝常行師

辻本　お寺では、悩み事の相談に来られる方もあれば、近しい人が亡くなってどうしていいか分からないというお話をお聞きすることもあると思います。その場合、どのような「聞き方」をすればいいのかと悩まれる方も多いと思います。

吾勝　「聞き方」より前に、そもそも「何で聞かないといけないのか？」という問題があるのではないでしょうか。

大学で一般の人を対象にした「仏教カウンセリング」の講座を17年ぐらい続けています。毎年30人定員で行っていますが、特に最近増えてきたのが定年退職した男性の方です。何で受講されたのかと聞くと、「自分の人生を考えたい」「残された人生を…」とか。男性の場合、お父さんの亡くなられた年齢が気になる。つまり、あと何10年かという時間を区切ったなかで、残りの人生をどう生きていったらいいのかということを考えるんですね。

辻本　仕事に打ち込んで、お金稼いでという役割を持っていたのが、仕事がなくなった途端、何をしていいか分からないという方はおられますね。

辻本真一朗師

吾勝　そういうニーズを持った人にどう関わっている感じが伝われば、向こうも安心して話ができる。そういうやり取りをしながら、相談者の中でだんだんと整理が付いていったりもするということですね。

解決というよりは、今日の次は明日もあるし明後日もあるしという日常の中で、何か手掛かりになればいいと思っています。

吾勝　心の整理ができてくると、何かおぼろげながら「あっ、やってみようかな」という気持ちが出てくるというのが、二つ目の効果ですよね。

これはその人の自己治癒力とか、レジリエンス（回復力、立ち直る力）とか言われますが。

辻本　本当にそうですね。まず相談に来られてる時点で、その人自身がどうにかしたいという気持ちはあるんです。だから、その気持ちを、こちらは対応で折らずに、今は八方ふさがりの状況だとしても、その中で一点崩せるような部分を話の中で見付けることができれば、その人にとっては道しるべの一つにでもなるかもしれない、という気持ちでやり取りをさせていただいています。

吾勝　仏教との関係でいうと、お釈迦さまのご説法も、まず相手の悩みや疑問を「聞く」ところから始まります。これが「対機説法」の意味だと思います。お経が八万四千あるというのは教えが違うのではなく、説く相手が一人ひとり違うからで、その人に合った形での対応の仕方が「対機」だということです。

つまり「対機」とは「聞く」だと思います。それは同時に「効く」でもある。その人に応じて対応していく話し方がある、それがカウンセリングとつながっているのではないか。

話を聞くときは、相手の「苦」という現状から入ると思います。例えば、悩み事や気になることがあって、不安障害とか「眠れない」「ご飯が食べられない」と、日常に支障が出てきた。

そういう人が目の前に来たとき、私たちはやはりその人の話を聞くと思うのです。ある程度の年齢になってくると、「伴侶を失った」という経験を語る人も多いですよね。

では、なぜ別れることがつらいかというと、もともとその人との関係性があって、その人を大切に思っていた、それが今失われたという結果を見ているわけです。悩み事というのは、一つの「結果」を聞いていますので、そこからその人の気持ちとか、背景にある状態をいかに理解するかということが、仏教の原点にあると思っています。

それと、これは僧侶の社会性についての話ですが、一般の人から見ると、浄土真宗本願寺派で得度したり教師を取っているのは、民間団体の資格を持っているのと同じことになります。

だから、僧籍を持っているのはプロフェッショナル、専門職ということなんです。これをいかに社会に還元できるか、社会に活用できるかということを考えていただきたいと思います。

このことは、相手にニーズがあった場合には、それにどう応えるかという責任が生じてくるということでもあります。

辻本　今日は「聞く」ことの大切さから始まって、仏教との関わりについても大変興味深いお話を聞かせいただき、ありがとうございました。

（文責編集部）

苦の現状から背景を理解　吾勝

日常の道しるべになれば　辻本

解決目指すより関わる姿勢が大切

心の問題について語り合う吾勝常行師㊨と辻本真一朗師

辻本　私の場合は高校でスクールカウンセラーをしていますので、子供が相談に来たときは、友人関係の悩みが多いです。しかし、学校生活がうまくいかないという悩みが最初に来るなかで、話を聞いていくと、ご両親との関係から自分に自信が持てず、そのせいで友達との関係でも自分の意見を出せないなど、実は小学生の時点ですでに問題の元が発生していて、それが今になってやっと出てきたという場合もあります。

吾勝　今お聞きしながら、普通は問題とか悩み事があれば、解決の方に早く行きたいというところがあります。しかし、そうではなくて、出口が見えないような中で、一回一回面接をしたり聞いていったりすると、その人がどんどん自分なりの解決方法を見出そうとしていかれる。こちらが聞こうとしている姿勢が反映されて、聞いている時間が治療効果を持っているのかなと思います。そのプロセス、関わり方の話ですよね。

辻本　話をするなかで、相談者も人に伝えようとすると言葉が整理がされる。こちらもそれをキャッチしくかというところに、「聞く作業」が必要なのかなと感じています。

この辺りは辻本さんの仕事になってくると思いますが、今、子供の状況が変わってきているじゃないですか。ネグレクト（育児放棄）とか虐待とか。学校の生徒さんでも、その背景のご家族の問題を考えながら話を聞かれるのでしょうか。

2組で連研修了式

12回の研修で門徒の自覚深める

3月3日、和歌山市狐島の覚円寺において、和歌山西組第17期連続研修会の第12回と修了式が行われた。

研修会には19人が参加し、「門徒としてどのような生活を送ればよいか」をテーマに、自由な話し合いが行われた。

まとめの法話で、組長の加藤典彦師（万福寺住職）はご親教『念仏者の生き方』の肝要を4カ条にまとめた「私たちのちかい」を引用。仏さまの真似事だと言われようとも、和顔愛語と少欲知足を胸に、他者を大切にしながら感謝の日々を送ってほしい、と述べた。

修了証を手に覚円寺本堂で記念撮影（和歌山西組）

加藤組長は修了式で、修了証を一人ずつ手渡し、この連研が所属寺院をはじめ組や教区の行事などへも足を向けるきっかけになれば、と話した。

受講者の一人で2年間話し合い法座の司会を務めた川口勇さん（松専寺）は、「参加者が協力的で有り難かった。連研が現代の問題に対応しつつ長く継続するものになれば」と話した。

玉置組長から修了証を受け取る受講者（和歌山組）

和歌山組でも3月9日、第7期連続研修会の第12回研修と修了式が鷺森別院本堂で行われた。

研修では、鷺森別院輪番の仲尾信博師が「御同朋の社会をめざして」をテーマに講義。沖縄別院に赴任していた経験から、「実践運動～子どもたちの笑顔のために～」と題し、沖縄市のお寺で初めてキッズサンガを開催するため、準備段階から門徒推進員さんのご尽力を頂き、地域の人々とも交流の輪が生まれたことなどを、写真を映写しながら約40分にわたり話した。

修了式では、玉置證組長（養専寺住職）から31人に修了証が授与された。

海草組が念仏奉仕団

実如上人の祥月法要参拝も

海草組では3月4日から一泊二日の行程で、僧侶・門徒ら40人が西本願寺念仏奉仕団に参加した。

3月5日は第9代実如上人（1458～1535）の御祥月命日のため、平素の奉仕日程と異なり、奉仕活動は初日のみだったが、参加者らは御影堂の畳拭きや向拝の拭き掃除に励んだ。

翌日のお晨朝は、漢音小経・礼讃後夜偈をお勤め。午前10時からは御影堂で、前門さまご出座のもとお勤めされた実如上人御祥月法要に参拝した。

海草組念仏奉仕団は2012年度から毎年実施しており今回で6回目を迎えた。

全員並んで御影堂の畳拭き

僧侶・寺族研修会

「和顔愛語」「少欲知足」の出典学ぶ

ご親教『念仏者の生き方』をより深く

講師の満井秀城さん

和歌山教区僧侶・寺族研修会が3月12日に鷺森別院、翌13日には日高別院（御坊市）で開催され、鷺森別院は48人、日高別院は22人の僧侶・寺族が参加した。

両日とも、ご講師に浄土真宗本願寺派総合研究所副所長の満井秀城師をお招きし、「大経の御文に学ぶ」というテーマで、専如門主が2016年（平成28）10月1日に発布されたご親教『念仏者の生き方』と、宗門の総合基本計画・重点プロジェクトについて学んだ。

満井師は、ご親教の「和顔愛語」「少欲知足」という言葉が、仏説無量寿経（大経）の引用であることを示され、この二つの言葉を中心に話された。

お話によれば、「和顔愛語」（やわらかな笑顔とやさしい言葉）は、大経において法蔵菩薩のご修行として説かれているが、それを私たち凡夫の側で行おうとするとき、同じようにはできず、それどころか腹が立てば人を傷つける言葉を吐き、また優しい言葉を用いているようでも、実は打算に基づいた二枚舌や口先だけの言葉でしかないことが多い、と述べられた。

しかし、嫌なことをされれば拳が上がり、不愉快なものは毛嫌いし払いのけようとするこの私が、阿弥陀如来の前では手が合わされ、愚痴ばかりで人の悪口を言うのが楽しいこの口から、南無阿弥陀仏の念仏が出て、何の打算もなく困っている人に優しい声を掛けられることもある。それはひとえにみ教えのお育てによるものだと話された。

そして満井師は、大経に説かれる第三十三願「触光柔軟」の願文を引用され、阿弥陀如来の清浄・歓喜・智慧の光によって、三毒（貪欲・瞋恚・愚痴）が治療されること、しかし凡夫の心は絶えず煩悩があふれ出ているため、不断光として絶えず阿弥陀如来は治療薬を施してくださっていると、お示しになった。

また「少欲知足」（欲が少なく、わずかばかりのことで満足する）も法蔵菩薩のご修行の一つであり、凡夫の側で考えるときには、自力の修行ではなく他力の実践行として考えるべきである旨をお話しになった。

鷺森別院ホール（3月12日）

自力の修行として考えれば、親鸞聖人が『一念多念証文』に、「無明煩悩われらが身にみちみちて、欲もおほく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむこころおほくひまなくして、臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず」（註釈版聖典693ページ）と記されたように、私たちが念仏申す身となっても欲が消えることはない。

日高別院御坊会館（3月13日）

しかし一方で、念仏者は欲の拡大には向かわず、有り難い、もったいないという感謝の心を恵まれ、慎む身へと変えられていくと続けられた。

最後に、ボランティア活動や募金などの社会奉仕活動が、自力に当たるのではないかという理由から、あまり熱心に行われていないことに触れ、このような活動は他力の報謝行としてもっと積極的に行っていくべきであると述べられ、実践運動のさらなる推進を訴えた。

確かに私自身、さまざまな社会奉仕活動を素晴らしいと思う一方で、これは往生のためにはならない自力の行為なのではないか、という思いがあった。

しかしそれをお念仏と同様の報謝行としてさせていただけるのだと聴かせていただき、目からうろこが落ちる思いがした。

（本紙・小川眞史）

響流十方

4～6月の催し

本山

4月13～15日　立教開宗記念法要（春の法要）、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要高札立札式
4月17～18日　大谷本廟総追悼法要
5月15日　夏御文章御開軸式
5月20～21日　宗祖降誕会
6月5日～8日　大谷本廟納骨・永代経法要
6月20～21日　住職補任研修、住職補任式
6月25日　住職・開教使退任式

和歌山教区

4月5日　布教団連続法座（鷺森別院）
4月8日　組長会（鷺森別院）
4月11日　仏教婦人会連盟第1回委員会（鷺森別院）
4月12日　勤式講習会（鷺森別院）
4月16日　仏教壮年会連盟理事会（鷺森別院）
4月19日　門徒総代会委員会（鷺森別院）
4月22日　寺族女性会第1回委員会（鷺森別院）
4月23日　ビハーラ和歌山総会（鷺森別院）
4月24日　社会問題担当部会（鷺森別院）
4月25日　少年連盟総会・研修会（鷺森別院）
5月10日　勤式講習会（鷺森別院）
5月13日　仏教壮年会連盟つどい（鷺森別院）
5月14日　寺族女性会つどい（鷺森別院）
5月15日　門徒総代会つどい（鷺森別院）
5月16日　仏教婦人会連盟つどい（鷺森別院）
5月23日　実践運動常任委員会（鷺森別院）
5月29日　ビハーラ和歌山協議会（鷺森別院）
6月13日　布教団連続法座（鷺森別院）

教区内各組

和歌山組

4月末定　寺族青年会『寺っ子花まつり』（善行寺）
4月9日　仏教婦人会コーラス（念誓寺）
4月16日　仏教婦人会コーラス（念誓寺）
4月23日　仏教婦人会コーラス（念誓寺）
4月末定　仏教婦人会ダーナの会（鷺森別院）
4月末定　寺族婦人会お花見会（未定）
5月7日　仏教婦人会コーラス（念誓寺）
5月14日　仏教婦人会コーラス（念誓寺）
5月末定　仏教婦人会ダーナの会（鷺森別院）
5月28日　仏教婦人会コーラス（念誓寺）
5月末定　組内会（鷺森別院）
6月4日　仏教婦人会連盟総会（鷺森別院）
6月末定　門徒総代会・仏教壮年会連盟合同総会（鷺森別院）
6月末定　実践運動協議会（鷺森別院）
6月末定　寺族婦人会例会（妙慶寺）
6月末定　仏教婦人会ダーナの会（鷺森別院）

和歌山東組

5月30日～31日　念仏奉仕団（西本願寺）
5月末定　組内会（善正寺）

和歌山西組

4月7日　組内会（西教寺）
4月10日　寺族婦人会例会（光源寺）
5月12日　組内会（西教寺）
5月25日　仏教婦人会総会（万福寺）
6月2日　組会（建徳寺）
6月末定　組キッズサンガ準備委員会（万福寺）
6月末定　寺族婦人会例会（未定）
6月末定　門徒総代会委員会・総会（万福寺）
6月末定　仏教壮年会連盟総会（浄福寺）

和歌山北組

4月中旬　第1回組内会（慶円寺）
5月下旬　仏教婦人会総会（永正寺）
6月上旬　寺族女性会総会（浄源寺）
6月中旬　門徒総代会総会（慶円寺）

加茂組

4月6日　組会（浄満寺）
6月6日　坊守会（光輪寺）
期日未定　総代会（未定）

海南組

4月6日　第3期連研修了者受講者のつどい（了賢寺）
4月7日　仏教婦人会総会・研修会（慶證寺）
4月末定　組実践運動委員会（了賢寺）
5月11日　仏教壮年会総会・研修会・懇親会（浄国寺）
6月1日　組会（了賢寺）
6月23日　門徒総代会総会・研修会（了賢寺）

海草組

6月8日　組内会（報徳寺）
6月14日　門徒総代会委員会（報徳寺）

伊那組

5月下旬　小委員会（かつらぎ町・極楽寺）
6月末定　組内会（かつらぎ町・極楽寺）

有賀組

4月14日　仏教婦人会連盟総会・研修会（正覚寺）
5月12日　仏教壮年会連盟総会・研修会、勤式作法研修会（正善寺）
5月22日　懇志会（未定）
6月1日　組会（専念寺）

有田南組

4月23日　仏教婦人会総会（真楽寺）
5月末定　組会（称念寺）
5月末定　仏教壮年会総会（興善寺）
5月末定　若婦人会総会（安楽寺）
6月末定　総代会総会（福蔵寺）

有田北組

4月20日　組会（西光寺）
5月22日　仏教婦人会連盟1日研修旅行（山科別院他）
5月末定　仏教壮年会総会・研修会（未定）
6月末定　総代会総会・研修会（浄念寺）

鷺森別院　春の恒例法要

みなさまぜひご参拝ください

各団体参拝奨励日
5月13日　仏教壮年会連盟（午後1時30分から）
5月14日　寺族女性会（午前11時から）
5月15日　門徒総代会（午前10時30分から）
5月16日　仏教婦人会連盟（午前10時30分から）

鷺森別院では5月13～16日の4日間、二尊像（宗祖親鸞聖人、中興の祖蓮如上人の連座の御影）が奉懸して、恒例の二尊会を勤修いたします。毎座、午後1時30分からお勤め、2時ごろから3時30分まで法話を聴聞します。講師は13日～14日が近藤龍樹師（兵庫県加古郡・普光寺）、15日～16日が竹内俊之師（兵庫県たつの市・浄蓮寺）。

この法要期間中は、仏教婦人会連盟、仏教壮年会連盟、門徒総代会、寺族女性会の総会や研修が開催され、各地から多くの僧侶・寺族・門信徒の皆さまが参集し、にぎにぎしく勤められます。

岡崎支坊でチャリティコンサート開催

2019 SAKURA CHARITY CONCERT

◆日時　4月7日（日）
13:00会場　13:30開演
◆会場　本願寺鷺森別院岡崎支坊
◆料金　1,500円（中学生以下無料）
◆出演　朗読＝言の葉
ギターデュオ＝まるとぼう
スチールパン＆クラリネット
＝朋と仲間達　他
◆主催　NPO法人F・プロジェクト
◆問合わせ
☎（090）1021-7068　担当：岡本

経費を除く収益金のすべては、NPO法人ジャパンプラネットフォーム宛に寄付されます。

日高別院の催し

■常例法座
4月20日、常例法座が開かれる。午後1時30分から本堂で正信念仏偈（草譜）をお勤め、引き続き、午後3時まで玉井一乗師（奈良県北葛城郡・宝林寺）の法話を聴聞する。

■降誕会・花まつり・湯川忌法要
5月12日、午後1時から本堂で菅原吉人日高別院副輪番による法話を聴聞し、御坊組内僧侶と園児らが、らいはいのうたをお勤め。その後、御坊幼稚園卒園児（小学1年生）のマーチングドリルを先頭に、同幼稚園園児らが、象に乗った花御堂を引きながら町内を行進する。

■総永代経
6月20日、午後1時30分から本堂で仏説阿弥陀経をお勤めし、引き続き3時まで、西郷教信師（滋賀県彦根市・龍泉寺）の法話を聴聞する。

（本願寺日高別院　御坊市御坊100　電話0738-22-0518）

鷺森別院の催し

■宗祖降誕会・初参式
5月18日、宗祖親鸞聖人のお誕生をお祝いする降誕会を午後1時30分から勤修。教区内僧侶が出勤し、正信念仏偈作法第2種をお勤め。その後、幡多哲也師（兵庫県豊岡市・西方寺）の法話を聴聞する。

この日は午前11時から本堂で初参式（赤ちゃんやお子さんの初参り）が行われる。詳細は後日、各寺院に送付される。

■総永代経
6月16日、午後1時30分から本堂で仏説阿弥陀経をお勤め。引き続き、午後3時まで法話を聴聞する。

■常例法座
鷺森別院では毎月15日、16日に常例法座を開いている。布教使は4月15日、玉井一乗師（奈良県北葛城郡・宝林寺）、16日、藤俊乗師（日高郡印南町・善福寺）。6月15日、西郷教信師（滋賀県彦根市・龍泉寺）。毎座、午後1時30分からお勤め、引き続き3時30分まで法話を聴聞する。

（本願寺鷺森別院　和歌山市鷺ノ森1番地　電話073-422-4677）

ラジオ放送番組 みほとけとともに

－西本願寺の時間－

◆毎週土曜日　午前5時50分から
－和歌山放送（WBS）－
和歌山・串本　1431kHz
田辺・すさみ　1233kHz
橋本・高野山　1485kHz
新宮・御坊　1557kHz

教区内各組の催し続き

日高組
4月13日　第17期門徒推進員養成連続研修会②（教専寺）
4月20日　総代会総会研修会（長覚寺）
4月29日　仏教婦人会総会・会員物故者追悼法要（未定）
6月1日　第17期門徒推進員養成連続研修会③（浄明寺）
6月15日　第1回組内会（未定）

御坊組
4月6日　御坊組組会（日高別院）
5月未定　組門徒総代会総会（日高別院）
5月未定　組仏教婦人会総会（日高別院）
6月未定　組仏教壮年会総会（日高別院）

紀南組
4月13日　組会（勝徳寺）
4月14日　第49回紀南組仏教婦人会総会（勝専寺）
6月中旬　第32回紀南組門徒総代会総会（未定）

得度

2月
栗本直紀（和歌山西組法専寺）

敬弔

岩橋英子（紀南組覚照寺坊守）2月15日
荻野良江（日高組浄明寺前坊守）2月22日
中西美代（加茂組遍照寺前坊守）2月25日
ご生前のご活躍ご尽力に感謝申し上げ、謹んで敬弔の意を表します

つれもて聴こら

声なき苦しみもお見通し

鴬地清登

「煩悩にまなこさへられて摂取の光明みざれども大悲ものうきことなくてつねにわが身をてらすなり」（註釈版聖典595ページ）

と、親鸞聖人は『高僧和讃』に、阿弥陀さまのお慈悲に遇うことができた喜びを詠われました。

私たちは、さまざまな煩悩によってこの眼がさえぎられて、私を摂め取ってくださっている阿弥陀さまのお光を見ることはできません。しかし、阿弥陀さまのお慈悲は、決して休むことなく、常に私の身を照らしてくださっています。

このご和讃で示されている「わが身」とは、親鸞聖人ご自身のことであり、また、私たち一人ひとりのことです。阿弥陀さまのお慈悲が決して休むことなく、私の頭のてっぺんから足の爪先まで到り届いて、私の身を満たしてくださったからこそ、この口から南無阿弥陀仏のお念仏がこぼれ出てくださるのです。

阿弥陀さまの本当のお姿は目で見ることはできませんが、仮のお姿で表れ出てくださっているのがお仏像です。そのお姿を通して阿弥陀さまのおはたらきを味わわせていただくことができます。例えば、お仏像は耳が大きく、目が細いという特徴があります。

耳が大きいのは、一人ひとりの声にならない苦しみや悲しみを決して聞き漏らさない、というお心が示され ています。赤ちゃんであれば声を出して泣けば、周りが気付いて心配して駆け寄ってきます。

しかし大人になるにつれて、声にできない苦しみや悲しみに出遇うことがあります。そのようなときでも「私が聞いているぞ、全てわかっているぞ。安心しろよ」と阿弥陀さまが一つも漏らすことなく苦しみや悲しみを見通してくださっているのです。

また、可愛い赤ちゃんの笑顔を見るとニコッと目を細めるように、阿弥陀さまの目も細く示されています。

阿弥陀さまは私たち一人ひとりのことを、我が子のように思ってくださっています。「いつでもあなたのことが大切だ。どんなときも決して一人にさせないぞ」とのお心が、この細い目によって示されています。

では、このような阿弥陀さまのお姿に対して、私たちの姿はどうでしょうか。

阿弥陀さまとは反対に、耳が小さく、目が大きいのが私たちの姿です。私たちの耳を通すと、たとえうそだと分かっていても褒められると舞い上がり、本当のことだと分かっていても、けなされると腹が立ってしまいます。

また、私たちの目は、自分の善いところと他人の悪いところだけを見て、自分の悪いところと他人の善いところはできるだけ見ないようにしてしまいます。

そのような私の姿を見抜き、決して放っておくことはできないと立ち上がってくださったのが阿弥陀さまです。あなたを放っておけない、決して一人にさせない、と今まさに南無阿弥陀仏となって到り届いてくださっているのです。

「目で見ることができないから、そのはたらきが認められない」というのは浅はかなのかもしれません。

風は目では見えませんが、確かに吹いています。風を直接絵に描くことはできませんが、散っていく木の葉や揺れる稲穂を描くことで、風をこの目で見ることができます。

風が稲穂を揺らすように、阿弥陀さまが私のこの口を南無阿弥陀仏と揺らしてくださっているのです。

今、阿弥陀さまのお慈悲のなかに生かされています。これからも、共にお念仏の道を大切に歩ませていただきましょう。

（東大阪市寿町・本照寺）

～1月16日の鷺森別院常例法座の法話から～